

1 単元名 本と友達になろう  
「白いぼうし」

2 単元の目標

- ・楽しんで物語を読むことで、読書への関心を広げ、進んでいろいろな本を読もうとする。  
(関心・意欲・態度)
- ・情景や登場人物の様子を、叙述をもとに想像しながら読んだり、自分の考えをまとめ、友達との感じ方について違いがあることに気付いたりできる。(読む)
- ・紹介カードを作るために必要な事柄を集め、紹介したい部分とその理由などをはっきりさせて書くことができる。(書く)
- ・「白いぼうし」についての感想や読んだ本についての自分の思いを相手にわかりやすく伝えたり、相手の思いを聞いたりすることができる。(話す・聞く)

3 単元について

本単元は学習指導要領の「読むこと」と「書くこと」の目標を受けて設定されている。「読むこと」の目標は「目的に応じ、内容の中心をとらえたり段落相互の関係を考えたりしながら読むことができるようにするとともに、幅広く読書しようとする態度を育てる。」である。「書くこと」の目標は「相手や目的に応じ、調べた事などが伝わるように、段落相互の関係を工夫して文章を書くことができるようにするとともに、適切に表現しようとする態度を育てる。」である。いろいろな読み物に興味を持ち、本を探して読むために三つの学習活動から構成された単元である。まず、「白いぼうし」を読み、続いて自分でいろいろな物語を探して読むことを経験する。そして、最後に自分が読んだ本の中から他の人に紹介したい本を選び、紹介カードを書いて発信するという学習である。「白いぼうし」の読みは、シリーズものやファンタジーをはじめとした様々な本と出会わせたり、より豊かな読書生活へ広げたりすることを目的としたものになっている。

小学校の国語科の中には、全学年を通して「本と友達になろう」という単元が設定されている。そして、中学校でも「本の世界を広げよう」という単元が全学年に設定されている。そこで、この中学年の時期に読書の楽しさを感じたり、自分で本を探す方法を身につけたりすることは、これからの読書生活に大きく関わってくると思われる。また、読書記録を書いたり、本単元で作る紹介カードを書いたりする活動は、中学校の「本の世界を広げよう」でも行われるので、今の時期からそれらの書き方を身につけさせておきたい。自分で本を探して読み、さらに紹介するという活動は、今後も継続して取り入れていくことが大切であると考える。

4 児童について（男子19名、女子16名）

本学級の児童は、明るく元気で素直な児童が多く、授業中もまじめな態度で取り組むことができる児童が多い。昨年からの話し合い活動を多く取り入れてきたことで、自分の考えをまとめて発表したり、相手を見ながら話を聞いたりすることは、少しずつ身につけてきている。しかし、友達の話聞いてさらに自分の考えをつけたしたり、深めたりすることはまだ不十分であるため、みんなの前で話す機会を増やしながら指導を続けているところである。

また、5月の初めに読書についてのアンケートを取ってみたところ、結果は次の通りであった。

①	読書は好きですか。	はい	32人
		いいえ	3人
②	1日にどのくらい本を読みますか。	1時間～	3人
		30分～1時間	2人
		10分～30分	26人
		0分～10分	4人

	③ どんな種類の本をよく読みますか。	(上位5つ) 物語 クイズの本 まんが型の本 図鑑 伝記
--	--------------------	---

読書が好きだと答えている児童が多いが、読書タイムなどを見ていると読書に抵抗を感じている児童も少なくない。また、1日の読書時間をみると、多くの児童が朝の読書タイムなど学校で設定された時間にのみ読書をしていて、家ではあまり読書をしていないようであった。読書の傾向は、物語の中でもこわい話、まんが型の本、クイズ本等を好んで読む傾向があった。

今年度は学校全体で、4月から「読書の記録」を児童が持ち、読んだ本を感想とともに記録するようにしている。また、その学年に応じた「おすすめの本」を読んだり、日本十進分類法(NDC)を学習したりすることによって、読書の幅を広げようとしている。こういった取り組みによっていろいろな種類の本を読む児童も増えてきた。しかし、国語で学習したことをさらに発展させるような本を選ぶ児童は少ない。

## 5 指導について

### 研究主題とのかかわり

本校の研究主題は「思いをふくらませ、表現することのできる子どもの育成」である。それを受けて、今年度の個人テーマを「自分の思いを文章にまとめ、相手にわかりやすく伝えることができる子の育成」と設定した。

本単元では、自分が読んだ本の紹介カードを書いて発信する活動を行う。その際に、読み手を意識した表現の仕方や、聞き手を意識した話し方ができるようにしていきたい。紹介カードを書く際には、読み手に伝わりやすいように、叙述をもとに自分の思いを絵や文でまとめるようにする。また、その紹介カードをもとに友達に思いを伝える際には、なるべく聞き手を見ながら話をするようにさせ、聞き手のことを意識させたい。グループの中や全体の場で思いを伝え合う活動を通して、個人テーマ、そして研究主題に迫りたい。

### 相手に伝えたいという思いをもつための手立て

伝え合う活動を活発に行うには、自分が相手に伝えたいという思いをもつことが必要不可欠である。伝える側のその思いが強ければ強いほど、受け取る側の心に響きやすくなるであろう。本単元で行う、本の紹介カードを作って友達に伝える活動においては、その本が好きだという思いや他の人にも読んでもらいたいという思いをもつことが、最も重要であると考えられる。今回は、そういう思いをもたせる手立てとして、話の「ベストシーン」を決めるという方法を取り入れる。話の中で自分が特に気に入ったシーンを選んで紹介文を絵や文でまとめることにより、その思いを凝縮させたい。その「ベストシーン」を中心にすることで、児童が意欲的に紹介カードを書いたり、友達に伝えたりすることができるようにしたい。そして、生き生きとした伝え合う活動につなげていきたい。

### 読書への関心意欲を高めるための手立て

前述したように、本学級の児童の多くは、自分の学年に応じた本や発展図書を探して読むということがなかなかできない。その理由に、より質の高い本を読もうとする関心意欲が低いことや、本の探し方がわからないということが考えられる。そこで、本時では「白いぼうし」の作者である、あまんきみこさんの作品を紹介し、同じ作者の本を探して読むという方法を子どもたちに伝える。その際まず、学級の中の児童から他の児童へブックトークをする活動を取り入れる。あまんきみこさんの作品が好きだという児童が、「おもしろさを教えてあげたい。」「みんなにも読んでほしい。」という思いを伝えることで、聞く側の児童が「自分も読んでみたい。」という思いをもつようになることをねらいたい。その後教師が、あまんきみこさんの作品の読み聞かせをすることによって、物語の世界に引き込み、よりいっそう興味を抱かせるようにしたい。

6 指導計画（16時間配当）

時	学習内容	ねらい	関	話	書	読	言	評価規準
1	「白いぼうし」を読んで感想を交流し、学習の見通しをもつ。	作品の世界に興味をもち、初発の感想をもつことができる。	◎	○				(関心・意欲・態度) 物語の世界に興味をもち、初発の感想をもっている。
2	夏みかんにこめられた登場人物の思いを、言動に注目して読み取る。	夏みかんにこめられた松井さんの思いを、会話や行動に着目して読み取ることができる。				◎		(読む) 松井さんが夏みかんを大切に思っていることを会話と行動から読み取っている。
3	松井さんの人柄を、白い帽子、たけのたけお君との関わり方から読み取る。	松井さんの男の子への思いを、会話や行動に着目して読み取ることができる。				◎		(読む) 松井さんの男の子のことを思いやる心を、会話と行動から読み取っている。
4	女の子の様子と松井さんの様子を読み取る。	松井さんや女の子の様子を、会話や行動に着目して読み取ることができる。				◎		(読む) 女の子と松井さんの様子を、会話と行動、様子を表す言葉から読み取っている。
5	たくさんのちょうが飛んでいる様子を読み取り、聞こえてきた小さな声について話し合う。	たくさんのちょうが飛んでいる場面を想像し、聞こえてきた小さな声について考えることができる。		○		◎		(読む) たくさんのちょうが飛んでいる場面の様子を想像し、小さな声について考えている。
6 7	「白いぼうし」の紹介カードの案を考える。	知らせたいことを集めて整理することができる。			◎			(書く) 知らせたいことを集めて整理することができる。
8 (本時)	「白いぼうし」のベストシーンについての思いを交流し、友達や教師からの本の紹介を聞く。	「白いぼうし」のベストシーンについての思いを交流したり、作品の紹介を聞いたりすることによって、あまんきみこの他の作品を読もうという意欲をもつことができる。	◎	○				(話す・聞く) 「白いぼうし」のベストシーンについての思いを交流することができる。 (関心・意欲・態度) あまんきみこの他の作品を読もうという意欲をもつことができる。
9 10	紹介したい本を選び構想を練る。	本の探し方を理解し、友達に紹介したい本を探することができる。				◎		(読む) 本の探し方を理解し、友達に紹介したい本を探している。
11 13	一人一人で作品紹介カードを書く。	読み手を意識して、「おすすめの本」紹介カードを書くことができる。				◎		(書く) 「おすすめの本」紹介カードを作るために必要な事柄を選び、書いている。
14 15	紹介カードを互いに発表し合い、読んでみたい本を決めて読む。読書後、感想を交流する	紹介カードを互いに発表し合い、読んでみたい本を読み、感想を交流し合うことができる。	○	◎				(話す・聞く) 紹介カードを相手にわかりやすく発表することができ、読書後の感想を交流し合うことができる。
16	「四年二組おすすめの本」カード集を作り、学習のまとめをする。	カードの書き方についてまとめながら、これからも本を読んで「おすすめの本」カードを書こうという意欲をもつことができる。	◎					(関心・意欲・態度) カードの書き方をまとめ、今後の活動について意欲をもつことができる。

7 本時の目標

- ・「白いぼうし」のベストシーンについての思いを交流することができる。
- ・あまんきみこの他の作品を読もうという意欲をもつことができる。

8 準備物

児童が描いたベストシーンの絵，ワークシート，あまんきみこ作の本（30冊程度），読み聞かせの場面絵

9 本時の学習過程

学 習 活 動	支援（・）と評価（☆）
<p>○ベストシーンに選んだ場面を各自が音読する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「白いぼうし」の心に残るベストシーンについて、自分たちの思いを交流しよう。</p> </div> <p>○選んだベストシーンやその理由について全体の場で発表する。</p> <p>○選んだベストシーンについて、班の中で自分の思いを交流する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・わたしは、松井さんが白いぼうしに夏みかんを入れる場面をベストシーンに選びました。理由は、松井さんのやさしさをとても感じるからです。</li> <li>・わたしも、その場面をベストシーンに選びました。でも理由が違います。</li> <li>・わたしは違う場面を選んだけど、その場面もとてもいいと思いました。</li> </ul> <p>○意見を交流し合った感想を発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・～さんと同じ場面を選んだのに理由が違った。</li> <li>・～さんのベストシーンを聞いて、なるほどと思った。</li> <li>・私の選んだところも良かったと言ってもらえてうれしかった。</li> </ul> <p>○あまんきみこの作品が好きだという児童が、自分の中でお気に入りの本を紹介する。</p> <p>○教師の読み聞かせを聞く。</p> <p>○友達や教師からの本の紹介を聞いての感想を書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・内容理解を深めるために、児童が描いたベストシーンの絵を黒板にはり、選んだ理由のキーワードを板書していく。</li> <li>・相手にわかりやすいように、選んだ場面がベストシーンだと思う理由を教科書の叙述に即して話すように助言する。</li> <li>・相手の思いを否定するような発言はしないよう注意する。</li> </ul> <p>☆「白いぼうし」のベストシーンについての思いを話し合うことができたか。</p> <p style="text-align: right;">（観察…話す・聞く）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語をイメージしやすくするために、児童が描いたベストシーンの絵を見せながら紹介させるようにする。</li> <li>・物語をイメージしやすくするために場面絵を用いる。</li> <li>・児童に読んでみたいという思いをもたせるために、教師が選んだベストシーンの部分のみを読む。</li> </ul> <p>☆あまんきみこの他の作品を読もうとする意欲をもつことができたか。（ワークシート…関・意・態）</p>

10 授業の観点

- ・読書意欲をもたせるために、ベストシーンを柱とした本時の授業の展開や手立ては有効であったか。